

(到達目標)・・・保有する感覚を有効に活用して、周囲の状況をよりの確に把握するとともに、自らも環境に積極的  
に働きかけ、様々な体験を通して感覚をより豊かにすることができる。  
(指導方法)・・・指導者との1対1の学習の中で身体を通したやりとりを通して指導者の要求を受け止め、主体的に  
応じることに慣れさせる。大球など様々な物に自ら積極的に働きかけ、様々な反応を身体全体でたくさん味わわせる。  
(課題)・・・課題を明確に伝える為のより適切な補助の仕方、見通しの持たせ方。子どもの反応に対する指導者の受け  
止め方、返し方。自発性、主体性の尊重。環境への働きかけや反応の受容がより効果的に行えること。

○水の感覚が大好きな特性に対して

〈プールが大好き〉

プールでは、長い時間飽きずに遊べる。水泳学習の為の着替えだと理解しているときは、非常に素早く行動できる。  
「これが終わったらプールで遊ぼうね。水遊びしようね。」の言葉かけで、好まない課題でもある程度は努力出来る。

〈水が大好き〉

トイレの水も大好きで、トイレの水栓レバーを自分で動かして頭に水をかけてしまったり、便器の水を触ってしまう。  
ロールペーパーも全部紙をほどいてしまう。(自分から尿意を訴えた時でも、すぐには排尿せずに時間がかかる。便座に  
座らせても、ドアをノックする音を楽しんだり、声を出して反応を喜んだりしてあそんでしまってなかなか用が足せない。  
一人にすれば、ある程度の時間で用を足すが、上記のような問題が生じる。)  
一人にして排泄を促す時は、水栓の元栓を閉めたりペーパーを外しておく配慮が必要。困らせて周囲の反応を喜ぶ一  
面もあるので、あまり事態に動じず淡々と処理することで問題行動の習慣化を防いだ。きちんと排尿できたことを大い  
に認め、できることの喜びに興味を転換させていった。

○対人関係のルールについて

人の嫌がることを理解できず、つねったりたたいたりすることで、相手との関わりが持てたと思ってしまう。優しく肩をた  
たいたりできず、カー杯たたいてしまう。

「痛いよ。」と優しく言うとなますます喜んでしまい、叱られていることがわかると頭をたたいたり、手首をかんだりして自傷  
的になるなど、対人関係のルールの指導は難しい。しかし、叱られているのが理解できるようになったことに成長がみ  
られた。

#### ①感覚

・集中させたい場面では、周囲の刺激をできるだけ減らす(不要な刺激を減らす)ようにしている。例えば、着替え場面  
では周囲に衝立をしたり、トイレの便座に座る場面はカーテンで隠すなど。

・臭いにとっても敏感ではあるが、周囲の雰囲気(周りで会話「ウンコ出たね～」「もらした」など)をすぐに察知して「オ  
エッ」とえずくことが目立つ。

・臭いだけでなく初めての場所や、クラス替えの当初などは緊張感で「オエッ」とえずくことが多かったが慣れるにつれ  
えずかなくなった。

#### ②対人関係

・遊びや授業場面では、友達の意図を理解するのが困難な時期があったが、共に生活する中で「この子はこういう子だ  
ということがある程度理解できるようになり、トラブルが非常に少なくなった。

・最近では自分が「やりたい」という気持ちを我慢して他者がやっている様子を見て待つことができるようになってきた。  
順番が待てるようになったことや友達とのトラブルが減ったことで本人にとって教育内容をしっかりと取り込み、成長し  
ていくためのプラス要因になったと思う。

・ついつい、友達の手を強く引っ張ってしまったり、髪の毛をわしづかみしてしまったりした時は「～ちゃん痛いよ」「やさ  
しくね」と言うだけで反省して、「ごめんなさい」と言ったり相手に抱きついたりして謝っている。

①到達目標・・・絵カードを見て実物が絵カードのどれにあたるかがわかる。

①指導方法・・・絵カードが置いてある2種類のお皿の上に正しい実物をのせさせる。

①課題・・・右側の皿の上にはしか実物をのせようとしない傾向がある。

②到達目標・・・提示された本の中から好きな絵本を選び、教師の読み聞かせを聞いたり、自分で絵本のページをめ  
くったりできる。

②指導方法・・・仕掛けのある絵本を何種類も使い、生徒が好きな絵本を選ばせたりする。

・クラス替えや担任、教室が変わると不安になり、友達を噛むことがあったので指導した。

・洋式トイレのスイッチが気になり、毎回触るのでスイッチを切って水が出ない様にした。

視力が弱いので、近くで物を提示したり、活動に見通しを持たせる為に、何をするのか言葉かけをして行動するようにしている。

(目標)教師の援助を受けて、友達と一緒に色々な遊びを楽しむことができる(「遊び」の授業にて)

・遊びの簡単なルールを理解し、友達と一緒に参加することができた。椅子取りゲーム(「椅子に座る」と言われたら座る)、花いちもんめ(椅子に座って友達と手をつないで。代表は紙テープずもう)、黒ひげゲーム、2択かるたとり等  
・順番を待ったり、友達の様子を見て楽しんだりすることができたが、やる気が強すぎて順番を待てない時、周囲の友達に手が出る、床にひっくり返るなどの行為で訴えることがある。「ことば、かず」などの授業でも同様。

児童が手にして良い物(絵本や紙類、おもちゃなど)を教室のある一定の決まった場所に置くようにして、それ以外の机の上などへ手をのばさないように周辺に近寄らないように習慣づけをしてみました。うまくいって気に入った物を手にしたり、口に入れたりする時は必ず自分の机、いすにもどり着席し、遊べるようにルールを作って成功しました。

環境の把握に関する目標は特に設定しておりません。

にぎやかな場が好きで、人の集まる場所へ来ると「何が始まるのだろう」と顔を上げて周りを見ている。音楽の演奏やダンスが始まると笑顔になり、手足をばたばたとしたり、笑い声をたてる。慣れ親しんだ教室(HR)が好きで、校内の一階にいると一人で教室の方向へ歩き出し戻ろうとする。自分をよく知っている人の前ではわがままを出す。優しい怒らない人には初対面に近くても甘える。ガーンと叱られるとフェ～としかめ面になる。

・日常生活の中、学習の中を通して行っています。特別な学習の時間はありません。  
・図工や生単の調理の時間に素材に触れる活動があります。  
・生単のゲーム集会などの中で簡単なルールのある遊びをしていますが、教員と一緒にしています。

よだれが多かったり、鼻に手を入れてさわったりする時には、ハンカチ等でふくように言葉かけし、支援している。

先生や友達との関わりを楽しむことが出来、表情もとても豊かになる。教室ではマットを敷き、休み時間には、先生や友達とゆっくりくつろいで遊べる空間を作っている。

・優しくしてくれる人、遊んでくれる人を選別することはとても上手。教師と一緒にする活動の中で、そのような人を選んで誘うことができるが、指導の必要な場面では説得に時間がかかることがある。Ex)朝の運動で介助員さんなど運動を強く進めてこない人と一緒に活動したがる時がある。  
・集中が難しいので刺激を減らす・・・又は、他の児童と同じ活動をまねする。などなるべく集中できる環境を作る。

#### 指導課題

・人との関わり方の改善を図る

#### 指導方法

・たたいた時には「痛い」ことを言葉やサインで告げ、手を持って再度なでさせて関わり方を修正させる  
・なでた時にはすぐに応じて、正しい接し方であることを理解させる

対人関係のルールは、好きな先生や友達に会った時は抱きつくのではなく、違う表現を学んでほしいと思い、「高校生はそうはしない」とか友達に「優さんやめてください」と言ってもらっているうちに自然と距離が保てるようになったと思います。高3のころには笑顔でペコとするようになりました。

学習の課題・・

- ①色々な人の声かけや援助を受け入れて活動できる
- ②自分の要求や意思を明確に伝えることができる
- ③活動に見通しをもつ

指導内容・方法・・

- ①毎日の生活の中で複数の担任が関わるようにする
- ②発声、指差し、身振りなど自分からの意思表示を増やす
- ③朝の会や係り活動など毎日繰り返す

担任や自分の教室をキーパーソンやホームとしながら、身近な教室や他グループ教職員や友達とかかわったり、他の環境で過ごしたりして探索活動をする。鏡を通して映った大人とのやり取りをする。

【質問1】各学習における到達目標と指導方法、ならびに課題について

2. 自立活動の学習

4) 身体の動き

ペグさしや型はめ

- ・教師が側で支援すれば、集中して行うことができる。
- ・ストローやつまようじ等小さな穴に入れることができ、パック牛乳や、パックジュースにストローをさす動作も上手である。
- ・ポケットにハンカチを入れる動作は、繰り返し行ったり、教師がポケットからハンカチを出し入れする動作を見せることで、できるようになりつつある

- ・歩行、走行ともやや不安定
- ・驚くと硬直して転倒しやすい
- ・階段昇降もできるが慎重である。
- ・作業している手元が見られないことが多い。

階段昇降・・・恐がり、座り込んでしまうことが多かったので、まずは一人に静かな環境で体を進行方向に向け、足下を常にいきしててんぼ良く上れるように練習した。最近では周りに人がいても、上り、下りに意識を向けて座り込むこともなくなった。手すりを掴み、一人で昇り降りできることが今後の課題。

- ・背骨がゆがまないように座位はあくらで
- ・いすは個人に合わせた物
- ・両手の使用
- ・手提げに教具を入れて持たせる。
- ・歩行可
- ・階段、片手は手すり、一人で可、身体を前向きに
- ・物を取らせる

姿勢

立位は少し足を開いて安定した姿勢がとれる。  
座位は、声をかけると正座や体育座りができる。  
膝立ち位は前に補助するポールなどがあるとできる。  
側臥位、仰向け、うつぶせはできる。

動作

足を開いて膝に手を置き、前屈して股除きができる。その手を床につけることも出来る。

短時間なら中腰ができる。

手を頭より上に挙げる事ができる。

(ものによっては)ものをつかんだり、つまんだりすることができる。

拍手が出来る

↓これらのことから

立位から地面に座ったり、いすや便座に腰掛けたり、そこから立ち上がったたりできる。

服を頭から被り、補助すると腕を袖から通すことができる。

ばんざいをして、服を脱がせるのに協力することができる。

完璧に出来るわけではないが、ズボンやパンツを上げ下げできる。

手を添えると、靴を脱ぎ履きできる。

スプーンやフォークを使ったり、手づかみにしたりして食べることができる。

コップや水筒をもって飲むことができる。

ペグ挿し、3センチ大のビーズの紐通し、洗濯ばさみの取り扱い、おはじきの貯金箱入れ、1センチ大のすずの穴入れ等ができる

ボールを両手で持って、投げたり、片手で蹴ったりすることができる。

移動

ある程度長い距離を歩いたり、短い距離なら小走りができる。

手すりにつかまって階段の上り下りが出来る。

横転がり、はいはいができる。

椅子や荷物をもって移動することが出来る。

①動作と姿勢・・・マヒが有り介助が必要

②基本的な日常生活動作・・・マヒが有り、会場が必要、足元が非常に不安定で一人では不可

③身体の移動能力・・・マヒが有り、会場が必要、足元が非常に不安定で一人では不可

④目と手の協応動作・・・7mm四方の目に針をさしたり、大きい穴のビーズ通し等15程度集中してできる。

(目)・バランスを保ちながら、少ない支援で歩く。  
・おはじきなどを人差し指と親指で使ってつまむ事ができる。クレヨンやサインペンで殴り書きができる。  
(方)・片手支持での歩行に日常的に取り組み、バランス感覚を高めながら、自力での安定した歩行を目指す。階段を上がる練習や学校内を自分の足で歩いて回る経験をたくさん積ませる。  
(課)・「好きな先生に会いに行こう」という声掛けや、好きなビー玉の入ったペットボトルを片手に持つ事で、片手介助での歩行、朝10分。トイレの行き帰り、校舎内の移動、かけ足体操(体育)の時間の歩行を行っている(側度右)  
・階段では教師に体重を預ける事が多いので(後ろに居る)、今後の課題である。

・体を出来るだけ動かし、最後まで頑張ることができる。・・・リズム運動が大好きで、リミックなど音楽を入れる事により、最後までがんばることが多くなってきている。  
・物を掴んだり、しっかりとぎったいできる。・・・木工用ボンドが大好きで手につけて、はがして遊ぶなどしているうちに指先でつまむ事ができるようになり、ボタンがけも上手になった。

手指の分化が未発達で微細運動は難しい

姿勢の保持、場に応じた姿勢は高等部入学当初からできていました。歩行や階段の昇降のときに不安的な感じがありますが、手すりを使いながらバランスをとることが出来るようです。手指機能の面では、緊張したときや、細かな作業をするとき、小刻みに震えがみられますが、日常生活動作に重大な支障はないと思われれます。  
また、教師が常に側で見ていないのですが、一人で作業や課題に取り組む時、周囲の動きに気を取られたり、興味が別のところにあると、手元に注目できず、作業が中断されたり、上手く作業が出来なかつたりすることがあります。時折、声をかけることで作業にもどることができてはいますが、周囲の環境に左右されやすいところが、これから改善していきたいと感じている部分です。

「到達目標」

ころびそうになった時、手をつくことができる。

「指導方法」

日常生活の中や、自立活動の時間にできるだけ四つん這い姿勢や這い姿勢、立って前屈の姿勢、しゃがみ立ち上がり(重心を前にしっかり移しての)などを練習します。

「課題」

何かにつまずいた時、棒のようにピンと伸びた姿勢で倒れてしまう。

・粗大模倣ができる。  
・手首を回す(かえす)ことが苦手  
・ペグさし、プラスチック、型はめ、紐通しなど行っている(目と手の協応)

・四つ這い、膝歩きは、自在に出来る。歩行器は後ずさりも自分で出来る。物につかまらず、自分で立ち上がる。気持ちのついてくると片方だけの介助で歩行ができる。

・座っている時の姿勢には多少気をつけている。お尻が前に行ってしまうたり、横に倒れていたりしている時など。  
・ごくまれに転倒することがあるので、注意している。はじめての場所に行くと、本人も多少怖いのか足下に対して、慎重になる。

・立ち上がりの練習や、介助での歩行練習の中で脚力をつけたり、重心の移動を覚えることができるようにしていく。  
また、身体を支える足の力をつけたり、足底で体重を感じたりできるようにしていく。  
・「ふれあիրラックス体操」を行って、身体の各部位を意識させ、関節や筋肉を緩める。

目標

・教員の手本を見て、模倣動作ができる。

方法

・階段を足を交互に出しながら昇り降りを促す。

・魚釣り学習、給食の牛乳配り(1個ずつ)

◎階段の昇降は毎日の教室移動の際には、必ず取り組んでおり移動のスピードも含め、かなり成長してきている。

「到達目標」

- ・いろいろな器具を使って、サーキットトレーニングを楽しむ事ができる。
- ・マラソンや体操などの活動内容を理解し、友達を楽しく身体を動かす事が出来る。

「指導方法」

- ・不安な動きや挑戦した事がない器具に対してこわがってしまうことのないように、友達や教師と一緒に楽しみながら挑戦できるようにする。
- ・自分から動けたら大いに褒めて、できた満足感を実感させる。
- ・足首まわしや屈伸、マッサージ行う。

「課題」

- ・ボール、体育器具、ゲームなど、さまざまなものに対して、怖がったり、遠慮したりしてにげしてしまうことも多い。

- ・身体の動作の基本的技能、基本的な日常生活動作、身体の移動能力、目と手の協応動作、自立歩行可能。片足でバランスをとりことは難しい。片足でバランスのとれない時は体を固定できるものに体を預けたり、手すりを掴んでバランスを取る事ができる。
- ・目標物を見ないで活動することが多く、目標物を見せると活動効率が上がる。できるものが増える。顔の方向を目標物に向ける支援をして改善しつつある。

立位、座位が可能で独歩も力強い。目的や、必要性、意識次第でかなり小中居物を指先でつまんでみせたり、遊び感覚でベルトやバックルを外したりシールをはがしたりすることができた。

身体の移動能・・・膝あげが小さく摺り足歩行である為、段差のある通路では付き添いが不可欠です。動揺性歩行。  
目と手と協応・・・可能です  
基本的な日常生活動作・・・介助は必要であるが協力は出来  
食事形態・・・むせることが多くなり、09年1月より食事形態をキザミ(とろみ付)に変更した。

全身が低緊張の傾向にあり、関節の固定や姿勢の保持が難しくなっている。日常生活活動では興味があるものに向かって、左右交互性の四つ這いをしたり、つかまり立ちをしたりする様子が見られる。また、大人が上体を支えると立位を保つ事が出来る。また、ウォーカーを使った歩行にとりくんでいるが、上体を保持する力が十分でないため、身体を前傾させた姿勢で倒れ込むように前に進んでいる。そのため、方向転換などには課題がある。教員がウォーカーを支えての歩行を毎朝取り組み500mほど歩いている。外での歩行には気持ちのり意欲的にとりくんでいる。足裏に体重を乗せる事ができてきている。興味がある物が増え、「移動して～する」といった目的を持って移動し、移動する事に喜びを感じられるような活動を工夫したい。

- ・一人で立つ、座る。
- ・段差に気をつけて移動する。
- ・目と手の協応動作を高める。(籠を所定の位置に戻す。靴の脱ぎ履き。衣服の着脱や袋にしまう。お手拭きの片付け。係り活動としての机運び。モップ掛け、蒂の使用など)

- (記録)・歩行は、本人が教師の腕をつかんで歩く事が多い。一人で歩くと段差などにつまづき転倒する事が多い。
- ・歩く様子を後ろから見ると、歩いている時自分の足の膝あたりにぶつかり転倒する事もある。
  - ・ペグ指しは、集中しておこなうことができる。
  - ・号令「起立」の合図でタイミング良く立つ事が難しい。「立って下さい」と耳元に伝えると立ち上がる事が出来る。

- ・視覚の刺激が多いと、興味が次々変わるが、好きな事や、視覚刺激を少なくすると(個室で指導など集中して様々なことに取り組むことができる。→1. 4)〈作業学習〉に
- ・体が固い、ヒザぐらいまでがやっと。
- ・歩いたり、小走りしたりする時、足することがほとんどないので、少しの段差でつまづきやすい。
- ・こける時、手足を曲げずに、そのまま前や後ろに大きく倒れるので危ない。

何事にも、意欲的なお子さんなので、安全に留意し、出来る限り自発的な動きを見守るようにしています。姿勢変換や動作を支える時は、手を添える程度にし、出来る限り本児が自分の力で、バランスを取りながら動くよう支援しています。

目と手の協応動作は、食事や遊びの中でぐんぐん伸びている気がします。本人の自分でやりたい思いに沿って、本児の力で達成感を味わえるような自助具やおもちゃ類を試しています。

目標)・いろいろな身体の動かし方を経験し、動きの良い身体を育てる。

- ・移動能力を高める。
- ・立位姿勢の保持及び安定を図る。
- ・安定した独歩ができる。
- ・独歩で歩行距離を伸ばす。

指導方法)・ボディイメージを持ちやすい課題尾を設定する。

- ・楽しみながら、体を動かす機会を増やす。

基本的な生活動作は、全て出来るが、側わんが有る為、バランスを崩しやすい。

毎日の体育の継続・・・体育館でのマラソン、ラジオ対応、フラフープを使った縄跳び

自ら目的を持った行動はあまり見られない。車いすから床に下ろして座らせても、そこから姿勢を崩してズリ這いで動くというようなことは、こちらがそれを行おうにしようとしたら動かない。つかまり立ちから車いすに乗せる時に、自分で腰をひねって乗れるよう現在練習中である。絵筆を持って描いたり、物を掴んだりする手の活動は手元をみておらず、指示も通りにくい。また、握る力の加減も難しい。

目標:

- ・自分のことは自分でする。
- ・歩くことを基本とする。
- ・手指のこうち性を高める。

取り組み:

- ・トイレや他教室への移動を体調が良い時は歩行で行う。
- ・連絡帳、タオル、エプロンセットを所定の場所にかける。
- ・手、指を使った操作学習を行う。
- ・体づくりを行う(グラウンドを歩行する)。

- ・基本的な日常動作はゆっくり慎重である。
- ・歩行はやや不安定、階段は手すりにつかまって上がる。
- ・目と手の協応は苦手で集中力も途切れやすい。

・低緊張やそれがベースとなる動きのぎこちなさや経験不足にアプローチしている。自分ではなかなか経験できない動きやバランスなど器具を使う中で経験させ、身体意識を高めさせ運動のバリエーションを広げている。活動として、マットの山、トンネル、段ボールを体に巻き付ける、パルーン、つかまり棒、ハンモック

・側弯がある

側弯は固まるのを防止することが大事なのでストレッチをすることで固まらず、柔軟性を保てるようにしていく。

- ・席に座っての学習の時は、肘掛け椅子を使用している。
- ・容器(exペットボトル)にビーズ等を入れる事には集中し、手元をよく見て、ビーズを摘んでペットボトルに入れる。



〈姿勢と運動、動作の基本的技能〉

左右共に足首関節が内転する形で拘縮しており、毎日の学習に歩行訓練を取り入れ、しっかり体重をかけて足首を伸ばすことによる移動機能の保持を目標にしている。その際、前述のように本人が歩こうとする意志を持続できるよう、探索行動的にしている。歩行は、介助者が腰付近を後ろから支え手の介助歩行である。

〈身体の移動機能〉

上述の歩行に加え、自分の行きたいところに車椅子をこいで行けることを目標にしている。自由に車椅子で移動できる時間を毎日設け、校舎廊下を移動している。また、〈食事のときに食堂へ移動する〉、〈健康観察簿を保健室に持って行く〉など、目的を持った移動に移行できるよう、合わせて練習している。

〈作業の円滑な遂行〉

板にトングを取り付けたスタンプ台を利用し、スタンプを押す作業を、①しっかり器具を見て②教師の求めを理解して自分から手を伸ばす③同じことを継続して行う の3つをポイントにして毎日行っている。

- ・姿勢と動作の基本的技能(歩く、はう、走る)など一人でおこなうことができました。
- ・柔軟性がない。

〈到達目標〉

- ・学校生活の中で、基本的な日常生活動作・身体の移動能力等を身に付ける。
- ・着替えや型付け等、じぶんで出来ることを増やす。

〈指導方法〉

- ・靴を着脱し、靴箱に出し入れする。
- ・タオルやコップ袋をフックにかける。
- ・机の上で服をたたむ等の練習をする。
- ・当番活動やお手伝い移動や階段昇降をする。
- ・散歩に取り組む。

〈課題〉

- ・一人で出来ることを増やす。
- ・散歩の距離を伸ばす。

立位、姿勢では、かかとが、やや浮き、尖足気味である。独歩も可能ではあるが、バランスを崩した場合のケガが心配である。着替えでは、シャツは首をとおせば、腕を入れる、ジャンパーは広げて、こちらが着せようとする、手を通す。一人では日常生活動作は難しいが、2年間の指導で協力動作がだいぶできるようになった。協応動作については、給食時は介助皿にゴハン、おかず等を入れてあげると柄の太いスプーンでかなり上手に食べることができる。よく見ており、特に食べる時は集中している。

車イスで生活している。移動は介助であるが、教室まで50Mくらいの距離を自走可能。

・歩行能力の向上、手指機能の向上をめざす

(片手引き歩行、階段の昇降、イスやトイレチェアからの起立などを行いました。独歩の時間や距離が長くなってきました。イスやトイレチェアからのいすのひじを持って一人で立ち上がることが出来ています。両側の手すりを持つての階段昇降は一人で(けいれんがあるので必ず教師が前か後ろでサポートしますが)、片手すりは教師と一緒にできています。車椅子に乗る時も右ひじ側に手をつかせると、一人で座って、ステップ台(右側)を右足でおろしています。(左側は、左足で自分で下ろさないの、教師が左足を押さえる形で下ろしています。)

(目と指先を使う学習(棒さし、型はめ等)をしました。よく見てすることができています。まず、親指と人差し指で物を掴むこともできます。赤ボールと青ボールを赤と青の箱に入れる学習もよくできている。写真カード(身近な物、場)では、二者択一で「どっち」と質問するとよく見て、左手人差し指でさします。スクールバスや連絡帳、ボールプールなど。

・脱衣

学校では上靴や靴下を脱いでいます。(特に上靴)。冬でも脱いでいます。靴下は全部脱ぐ前に止めたり、脱いでもまた履かせたりして1時間ずっと履いている時もあります。靴は歩行の時は必ず履くようにしています。イスか車イスに座るとすぐ脱ぎます。服は防寒具としてのパーカーを時々、脱ぎます。脱いでも差し支えないので、その時は脱がして帰る前にもう一度着るようにしています。家庭ではトレーナーを脱いだりしているの、ボタン付きのシャツにしたり、つなぎを着せたりしているそうです。(乾燥肌でいつもお腹や首、足など全身かゆいようで、よくかいています。かゆみ止めの薬を塗ったり、夜は薬を飲んだりしています。)



(到達目標)

・階段歩行を上手くできるようになる。

(指導方法)

・前傾になるので、やや後方から片手を支え、重心が後ろになるように配慮する。

・立位保持、歩行訓練、ストレッチ、四つん這いの機会の設定。  
・狙ったものを握ったり、引っ張ったり、振ったりする機会の設定。  
・遊具やバランスボールを利用した遊びを通して仰向け、うつ伏せの姿勢をとる。  
・保護者、PTとの連携を心がける。

歩く時には、足の指を内側に入れて、かかとをやや上げて歩く。

〈姿勢・動作〉腰、胸のあたりが反っていて、肩は内側に力を入れている。股関節や足首に固さがある。

〈指導方法〉毎日、体の各部位をゆるめる学習に取り組んでいる。右手をつないで、手首を少し内側にするように援助すると安定して歩行できる。そのことで、もう一方の手を腹のあたりまで下げて歩行できる。

〈移動方法〉四つばい、歩行

・好きな場所に一人で歩いていき、座ることが出来る。正座、あぐら座りで座る。

〈目と手の協応〉(手元を見て取り組める)

・プラスチック製のカプセル、容器など、好きなものは、両手で持ち続けたり合わせたりできる。

・ものをつまむ時には、教師の指を支える支援を受けて、小さな突き物を人差し指の腹でつまも手前に引き上げてあげることができる。

・チャックを開ける時には、手元をみて親指と人差し指の側面でつかみあける。正中線を越える物は、手で持ち替えて開けることができる。

〈課題〉好きな物(ボール、プラスチック以外でも)の、レパートリーを増やすこと、つまんだり、掴んだりした後の方向に幅を持たせていく。

絨毯上でリラックスタイムでは横になってゆったりとしていることが多い。側臥位時も座位時も背中が丸くなる傾向が強い。ラジカセなどの電気製品や楽器など関心を引く物が目に入ると、よつばいで俊敏な移動ができる。目標が高い位置にある場合、つかまり立ちもできる。基本的には粗大な運動が得意だが、服に付いた米粒をつぶさずに器用に広い上げるなど、細かい動作もできる。動きについては本人のモチベーションによるところが大きい。

走る時、両手を高く上げて走ったり、急にスピードを上げたり、下げたりする等のむらな走りが目立った。日頃の生活の中でも、挙手をする時に両手を挙げる癖等があり、それが移動の走行時もそのまま、両手を挙げて走る等の動きにつながっていた。片手を上げて返事をする練習を通して、両手を挙げて走る習慣を減らす練習を行う。(基本的な移動は一人でも何でも行えるが、その他、走行時以外にも階段の1段2歩等も常に見られた。)

到達目標

・日常生活に必要な基本的な動作を獲得する事が出来る。

指導方法

・座っている時に背もたれに完全に頼りかかった状態になってしまうので、作業や給食時は背もたれの無いイスを使用している。背もたれなしだと前屈みで両手をついた状態になるので、目と手の協応がスムーズにいきやすい。

・つかまり立ちをしたまま靴の着脱やズボンの着脱をする練習をしている。本生徒も慣れてきており、足をあげる動作もスムーズに出来てきている。

・体力作りとしてランニングコース(400M)2~5週を歩く事を目標にしている。一度に歩く事は難しいので、午前・午後と分けて歩くようにしている。4月に比べて歩く距離が伸びてきている。

課題

・本生徒は体が大きいので、教員(女)一人では対応できない事がある。各種リラクゼーションや様々な姿勢保持動作を行いたいと思っているが、行えないのが現状である。

指が独立に動かないので、指で数を示す事は難しい。物を投げる動作が上手くできない。少し前屈みの姿勢。飛び跳ねる様な走り方、もつれそうになりそうな走り方をする。発声はあるが、発語は無し。遊びたい時、かまって欲しいような声は出す。人に会うのは好きである。自活でビーズ通しに取り組んでいるが、ビーズをよく見てあの小さい穴に意系を通していている。

姿勢と動作の基本的技能

座位

・体が後ろに反りがち。背もたれのないイスにも座る事が出来る。イスから立ち上がりはできつつある。

移動

自分からは尻ばいりでどうする。イスからだど、つかまり立ちをして、一度尻を下についてから進む。手すりを両手で持ちながら階段を上がる事が出来る。車イスを自分で操作する。

・身体の背面を中心とした筋肉の「緩める学習」と「使う学習」を通して、前屈みの姿勢の改善を図り座位や立位の安定並びに歩行能力の維持改善を目指す。

ア)「緩める学習」

→ 1 状臥位姿勢を中心とした弛緩誘導やストレッチ運動(肩、背中、腰の弛緩誘導と、股関節、膝裏のストレッチ可動域伸展運動)

イ)「使う学習」

→ 両膝ならびに片膝立ち姿勢での重心移動による上体の立て直し運動(腰、股関節)

→ イスに座って前方への片膝毎の曲げ伸ばし運動(踵を指示し伸展運動を促す)

→ 目標物を高い位置に掲げて促す、背伸び立位運動(肩、背中、腰、膝、足首)

→ 腕を差が得て歩く事によって促される上体起こし運動(腰、膝)

・椅子座位姿勢の改善と安定を図る。

ア) 体に合った大きさ(椅子やテーブルの高さ)の肘置きテーブル付きの椅子を活用する。

イ) 骨盤(腰)がずれないように、座面に滑り止めマットを敷く。

- ・良く歩き、歩行や階段昇降のバランスを向上させる。
- ・バランスを崩して転ぶ時は、手や膝を先につくようにする。
- ・大きめのウッドビーズ通し等で手指の操作性を高める。
- ・フォークで刺して食べる食べ方を向上させる。
- ・立って靴の着脱ができる。
- ・座ったり立ったりの動きがスムーズにできる。

(実態として)

- ・手すりを使って階段の昇降ができる。
- ・親指と人差し指を使って、物をつかみ移し替えることができる。
- ・バランスの保持に危うさがある。

(今年度の取り組みとして)

・階段の昇降の際、自分の鞆2つを片手に持ちかえて、出来る様になった。(意識もかわり自分で工夫して持ちかえるようになった。)

・粗大遊具によるバランス保持のとりくみ(ロールにまたがり、身体の重心を移動して踏みとどまったりする。はじめはすぐに倒れたが、しだいにうまく重心を移動でき安定感がでてきた)

目) 安定した歩行の獲得、バランス感覚の向上

指) 学校生活全般を通じた指導

週1回、自立活動担当教師による、歩行や立ち上がり、バランスの練習。

生徒が利用している訓練機関との連携(担任、担当による研修。視力等に関しては盲学校教育相談)

課) したいこと、行きたい所が増えている為、不安定なまま立ち上がったりしがちである。気持ちの広がりや、まだ不安定な身体の動きをどう調整するか課題である。

〈目標〉自分出来る動作や運動を増やす。  
 〈指導方法〉・ことば、かずの学習の中でペットボトルを長くつなげた筒をつるしボールを入れていく学習では、入口にボールを上手に入れ、その動きをよく追視して、自分の近くまでボールに戻ってくる様子を見ていました。  
 ・スウェーデン刺繍では、少し大きめの針を自分で持とうし、支援を受けながら一針ずつ布をすくと、その後はしっかり針を持って、引っ張る事が出来ました。手元も良く見えています。  
 ・一人で走るように促している。声掛けをしながら5分程度続けて走ることも出来る様になりました。  
 ・脊椎わん曲があるので、いすに深く腰掛け、姿勢が正せるよう、促しています。  
 〈課題〉・ビニール類に興味があり、掲示物のテープ類をはがすことは得意なので、それを活かし手指の操作性を高めていきたい。

★階段昇降

〈到達目標〉

- ・階段を一人で上り下りする。

〈指導方法〉

◎右手をてすり、左手にタオルや軽い手提げを持たせ、声をかけ励ましながら進ませる。

- ・上りはすぐ後ろに付く。
- ・降りには数段下に付く。ためらうときは、足を下ろすべき場所を「ここよ」と手で示したり、手すりをつかんだ手を、少し手前に誘導する。

〈課題〉

- ・上りは門抱く無く左右交互歩行できる。
- ・下りは1歩目が出れば1段ずつ下りられるが、まだ一歩目を踏み出すのに怖がる。また、他児が通ったりすると気を取られストップしてしまう。

★マット運動

〈到達目標〉

- ・一人でマット運動の前転後転横回りをする。

〈指導方法〉

◎斜面になっているマットを使う。前後転は2段重ねる。

- ・前転は、マットが高すぎるとき踏み台を使い、慣れてきたらはずす。

〈課題〉

- ・後転は起き上がる所でまだ補助が必要。
- ・横周りは、手足の力をもう少し抜いて回らせたい。

・S字側弯

- ・指先がうまく使えない。
- ・股関節が硬く、足がスムーズに出ない。足首、ひざも硬い。
- ・移動介助歩行、教室ではよつばいで移動する、よつばいでは好きな所へ行くことができる。
- ・お茶は飲みたい時には、お茶かごへ自分のお茶袋を取りに行く。
- ・ボールやカードなど手にとって遊ぶことができる。
- ・トイレの便器にすわることはあまり好まない。

目標：常に現状に合った、無理のないところで、身体活動を促す。多様な動きの経験をする。

方法：学校生活そのものが、種々の動作を要求されるので、体づかいを確認し、リラックスが必要なところは身体感覚として体験してもらうのに、動作方法やふれあい体操は最適なので、日常的に継続する。

目標・・・自由遊びや運動遊びの時間にしっかりと体を動かす。遊具などで遊ぶことが出来る。

指導方法・・・朝の運動の時間に歩く。自由遊びの時間には教師と一緒に色々な遊具で遊ぶ機会を増やす。運動遊びの時間は、体操やダンスなど部分的に真似て体を動かしたり、ハードル、マット水泳など色々な運動の経験をする。

・課題・・・色々なことに意欲的に取り組もうとするが、転倒したりつまずいたりしやすいので、注意が必要である。体については、ぎこちない動きが(がっくん、がっくんとした)みられる。緊張がある。ゆっくりした動きが難しい。さまざまな運動の経験を広げたい。

(ねらい)・活動を通して、様々な姿勢、動作をする中で身体の上手な使い方を知る。  
・日常生活や活動の中で、手指を動かし、操作性を高める。  
(活動内容)・体育の授業の中で歩く、走る、とぶ、こえる、渡るなどの警官  
・校外体育での長距離歩行  
・えがく、つくるの授業の中で色々な道具の使い方を経験したり、絵を描いたりする。  
(課題)大人の支援を受けながら、歩く力や、体力をつける。

座位は安定している。立ち上がりもスムーズになり、膝の使い方上手になってきている。一人で立ち上がり、歩ける様にもなってきた。また、座った姿勢からも四つ這いで早い移動をし、自分の行きたい所へ行く。立ったままの姿勢でいることは難しく、すぐに片足が出て歩いてしまう。また、歩く止まるのが難しく、ドスンと転ぶ様に座ることで止まっている。今後重心移動などの動作学習が必要。

目と手の協応動作

しっかりと手元をみて学習できる。

リースの飾り付け、調理、習字など

・姿勢と動作の基本的技能・・・重度であるため独歩などは困難。足首が外転・内典になりやすいので注意している  
・基本的な日常生活動作・・・トイレ介助、食事介助、移動は車いす(全介助)  
・身体の移動能力・・・よつばい、ずいばり、座位で移動  
・目と手の協応動作・・・目と手の協応はあるが、不随運動であるため、うまくつかめないことはある。ある程度可能

立つ・座るの動きや階段の昇降はゆっくりと慎重に行う。普段の階段の上り下りは手すりを使用。機能訓練では、手すりなしでの訓練を行っている。

・移動面、運動面は、教師が必ず手をつなぐ、体をささえる等の介助をしているので、他の児童の指導をする上で、教師の手が足りていないことを痛切に感じた。  
・歩いていてもバランスを崩したり、つま先を床やマットに引っかけてしまい、転倒することがあるので、目を離せなかった。  
・階段昇降は、手すりを使い、一段一段、教師が側で見ていて安全面の確認が必要である。  
・シール貼りやシールはがし、穴にボールを入れるなどの手の動きは、時間がかかるが興味をもつような工夫で教師と一緒に取り組める様になってきた。

目標・独歩や伝え歩き、介助歩行、自走式車いすで移動ができる。

・歩行場面を増やしなが、安全に移動できる体力やバランス力の向上を図る。・手指の操作機能を高める。・変形、拘縮の進行防止と体力の向上を図る。指導方法(移動)・徐々に歩行距離を伸ばしながら、立位や歩行での体力やバランス力を高める。・自主的に立ち上がって移動させる。・自走式車いす操作を楽しませる。・足元への注意を意識させる。〈手指の活動〉・手指の操作性高めさせる。(摘む、紐を通す、貼る、差し入れる等々)・手元への注視を意識させる。〈体幹機能訓練〉・変形、拘縮の進行防止に向けてマッサージやピーナツボールを利用したストレッチを行う。・いろいろな活動や器具に慣れ、楽しく活動しながら体力も高める。評価・課題(両上下肢体幹機能障害)〈移動〉・足関節の稼働域維持及び保護の為、補装靴を使用しています。・自力歩行を促しています。水遊びなど興味を持てる場所に向かって積極的に歩いて移動することができました。体育館のような起伏のない平坦な場所は、長い距離を一人であることができます。身体機能上、足下がみにくくこともあり段差のあるところでは、声かけをしていますが、上手に段差を意識してあることが多いです。(すり足で着地する為、小さな突起でつまずくことがあり、転倒防止の為、教員が側につき備えている)・階段の上り下りは、両手で手すりをつかみ、自力でできますが、一段ぬかしなどがある為、独歩時同様に教員がすぐ近くで転倒防止の為に備えています。自走式車いすに興味をもって取り組んでいます。バス介助員さんの応援を受けながら、バスの乗降も自力でできる場面が多く見られました。〈手指の活動〉・ミニボールやストローなどを摘んで仕切られた仕分け箱の一つずつ入れたり、穴の空いた注板を棒に刺したりする取り組みを行いました。教員が目的に箇所まで手を持ち、誘導しながら行っています。同じ取り組みを友達が行うのを見て、負けまいと頑張る場面が見られました。・ゴムホースの紐通しを通して手元への注視と両手の協応性を高めることをねらいに取り組みました。「右手で刺し棒を持つ」→「左でホースの輪を摘み刺し棒に刺し入れる」→「左手で刺し棒の先端を持つ」→「右手でホースの輪を摘み紐のとこまで移動させる」など、連続した一連の流れは、まだたしかかなものにはなっていませんが部分部分の工程は少ない支援で行うことができるようになってきました。手元もよく見るようになってきています。水道の蛇口をひねったり、おしほりケースのふたを開け閉めしたり、ありなどの小さなものをつまんだりすることもできます。型はめや棒刺しなどに取り組むことができます。歯磨きも声かけで少しの間は自分で歯ブラシを動かします。

〈体幹機能訓練〉・脊椎の側弯、腰椎の前弯、骨盤の前傾、体幹のねじれ、足首などの変形縮の進行防止の為、CDを聴かせリラックスさせながら、マッサージやピーナツボールなどの器具を使用したストレッチを行っています。また、下肢や股筋の筋力増強の為、歩行、階段昇降、下肢の屈伸、中位姿勢維持運動に取り組んでいます。マッサージや体幹の伸展には、とてもリラックスして受けていました。脚力が付いてきたようで、手すりなどを使っての座位からの立ち上がりも、自分から自然に行うなど、安定感も出てきました。・大好きなビニール袋を拾ったり、拾ったボールを転がして缶を倒したりするゲームを通して足腰の強化も行いました。興味を持って取り組むことができたようでした。・側弯等の進行防止のために、専用椅子と専用机を使用しています。※側弯傾斜角度50度をこえてきたため、学校生活でもハードコルセット使用を検討中。また、専用椅子と専用車いすの座面を加工中(4月完成)。・傾いた椅子座位姿勢を言葉掛けで意識させると、自分で正しい姿勢に直そうとする。・補装靴の着脱時にベルト(マジックテープ付き)を締めたり、外したりする活動時、周囲に気にし手元を見ないで行おうとすることがあるので、肩に手を回し状態を前傾させ、足下に顔を近づけさせて意識させると、スムーズに着脱ができる。また、脱ぐ必要に迫られた時には、自分から一人で着脱できる。

(次に期待している物がある場合など)

朝の歩行訓練やストレッチの才に日常生活動作や身体の移動能力などを取り入れ行いました。

- ①姿勢と動作の基本的技能・・・教室では、はこいす又は、ベルト付きのいすを利用していますすぐにすわれるようになってきている。
- ②基本的な日常生活動作・・・常に介助者が横について安全に配慮しながら自分で歩行している。階段は手すりをもって一段ずつ昇降する。長時間歩行はつかれが出るので遠足などでは、バギーを利用する。
- ③目と手の協応動作・・・靴箱に靴を出し入れする時や作業訓練のとき、手だけあずけて目はみていることが多いので、声かけをしながら手をとって指導する

・毎日ペグさしなど目と手の協応動作の課題に取り組む。やっていくものについては、上達が見られる。  
・給食の配膳など片づけにおいて物を両手でもって移動している(階段も含め)。

教科、領域の中で動作模倣等を通しておこなっています。体育でのグループ別学習の中で行っています。手足、体幹のゆらし等

○自由に動き回ることが好きである。人や物につかまって立ち上がることが出来る。(装具を履いて居ない時は、床に座っているところから自分で立ち上がる。)時々バランスを崩すことがありますが、体育館や廊下を独歩であるきつづけることができる。緩やかなスロープの上り下りできるが、下りは前のめりになってバランスを崩すことが多い。階段は手すりにつかまって上り下りができる。

○四つ這いで、素早く移動することができる。膝立ちでの移動も同様にできる。

○車いすに乗る為に、肘置きに右手を着いて身体の向きを変える動作ができる。紙をゴミ箱に入れる、体温計を引き抜いて教師の手の上に置く、スイッチを入れる、健康観察簿を持つ、二重ロックの窓の鍵を開ける、炊飯ジャーのふたを開ける等の操作ができる。

・歩行の機会を多く持ち、歩行の練習を続ける事でほこうできる距離を伸ばしている。バランス、1歩1歩に意識を向けて体重をしっかり支える練習として、階段昇降に取り組んでいる。練習をつむことで自信をうみ、座り込むことなく、しっかり歩き続けられるようになってきた。

・本児は肢体クラスだが、知的クラスの朝のトレーニングに時々交流し、思いっきり動き回る友達の中でよく見て、うながされよく動き色々な動きを経験している。

・パソコンのお絵かきソフトを使い、タッチパネルに触れると描けることを理解して、目と手の協応動作の練習をしている。とてもやる気を見せ、集中できる時間ものばしている。

- ・口元がゆるく、指、手しゃぶりをしている。
- ・バランスが悪く、なんでもない所ですまづき転びやすい
- ・階段降りて足下を見ない。
- ・机の学習で手元を見ない、周囲を気にしている傾向が多い。

(到達目標)・・・坐位、膝立ち、立位などより良い姿勢をとることを通して意欲を高め、姿勢保持や基本動作の習得・改善を図る。  
 (指導方法)・・・適切な力の入れ方で姿勢を保持したり、身体を動かしたりできるようにさせる。様々な姿勢の変化に慣れさせながら、バランス反応を向上させる。  
 (課題)・・・課題の設定の仕方(身体の特性への応じ方、ショートステップでの段階設定の仕方等)。課題達成のためのより適切な補助の仕方。日常への汎化。

- ・身体の柔軟性に欠ける為、靴を履いたり脱いだりの動作がぎこちなくなってきたが、自分ひとりではけるように、極力補助をしないようにしている。日常の最低限の動作は楽しい気分で自分のできるように、雰囲気作りに配慮している。
- ・朝のランニングや追いかけてこに興味を持ち、走るような状態の足運びができるようになってきている。追いかけてこの場面を意図的に作り、移動のスピードアップにつなげている。歩いたり走ったりすることの楽しさを大切にしている。

- ①姿勢・・・両足首の外反と両膝の反張があるが、本人なりにバランスをとって歩行、走ったり出来る。
- ②日常生活動作・・・くつの脱ぎ履き、着替え、リュックからの物の出し入れ、コップに水を入れて運ぶなど自立している面は多い。
- ③移動能力・・・バランスが良いとは言えないが、走って移動したり、三輪車や自転車(コマ付き)に乗って走行することも出来る。
- ④協応動作・・・タオルをフックに引っかける動作はとても力が入るが、何とか上手に掛けている。  
 ・1cm大の穴にいちご形のベグを挿す課題は、当初は自信が持てず、諦めることがあったが、現在ではしっかりと手元を見て、たくさん挿すことができるようになった。続けていると、時々、気が散って挿せなくなる時もある。  
 ・手元に集中する動作をしている場面では、舌の突出が見られ、よだれも多く出ている。

- ①到達目標・・・安定した立位を保つことができる。
- ①指導方法・・・股関節や背中が反りやすいので、その部分に手をあてて、緊張を取り、胸や腹が出てしまわないようにする。
- ②到達目標・・・少ない介助により、上体股関節が反らない正しい姿勢で、少ない介助により5メートルを1日何回も歩くことができる。
- ②指導方法・・・教師の右手で、生徒の右手をにぎり左手は生徒の左の腰にまわして歩く。

- ・歩行の時、ひざと胸が前に出て、腰が遅れてしまう様な歩き方をしている。左足がまっすぐ前に出ないことが多いが、早く歩くこともできるようになってきた。
- ・目と手の協応していないことが多いが、靴の着脱を例にすると靴を脱ぐ動作をしても周りの音が気になって見ないで脱ぐことが多い。

- ・「起立」という言葉掛けをすると立ちやすい。
- ・低い段差や小石等につまづきやすい。
- ・両手をついて、ころぶことが多い。
- ・コマやぶんぶんごまを回ることができる。
- ・フラフープをまたいで回ることが出来る。
- ・トントンボール、ころころあおうえお、くるくるドライブ、たいこのうた等の教具を楽しめる。
- ・丸、三角、四角の型はめができる。
- ・ビー玉ころころができる。
- ・介助者と縄跳びを持ち、回すことができる。
- ・手押し車ができる。
- ・階段を降りる時、前屈みになる。軽く手をそえ、腰を伸ばすよう声かけをしながら、ゆっくり降りている。
- ・絶えず目と気が他の人や人の声がある方に向いているので、課題に集中できるようにしやに入らない様に配慮している。



体幹が不安定なので、バランスよく歩行することを目標に、毎日散歩を行っている。散歩ではバランス感覚や筋力を養うために、坂道や階段、アスレチック遊具などいろいろなコースを歩くようにしている、座り込んで動かないことがあるので、体調に考慮しながら活動している。  
また、手指の巧緻性を高める為に、穴通しや簡単な調理実習などでものや道具を使う、活動を行っている。手先は割と器用で、道具に興味を持ち、集中して活動している。集中力がとぎれるとものをなげたりするので、とぎれないように言葉がけを行ったり、短時間でできる活動内容を取り入れたりしている。

上肢を左右同時に水平にバタバタ動かしながら歩く、後ろにのけぞり気味にバランスをとりながら歩いている。手をつながなくても転ばずに歩けるが、自分のすきな所に行ってしまうので、行ってもらいたい場所がある時は、手を引いて歩いている。床に手をつけて四つん這い(たか這いの状態)から起きあがるように(立ち上がられるように)なりつつなる。床の物をひざを曲げて拾う練習に取り組んでいる。手を使う細かい動作は、あまり取り組んでいないが床に落ちている小さなゴミでも上手につまんでいる。

- (目標)①様々な活動において、手元をよく見て操作することができる。  
②サーキット運動に教師と一緒に参加し、様々な動きに挑戦し、動きを覚えて自分ですることができる。(体育)  
③様々な造形活動に教師と一緒に参加し、手や指を使った活動をするすることができる(図工)

①と③に関して:朝の課題や様々な活動場面で手元に集中し、手指の操作性を高める為の課題を取り入れた。色の弁別も約8mm穴の物を棒に刺す物にしたり、ビーズおくりのように両手を使うものも取り組んだ。やり方がわかり、気持ちが向いている場面では、操作性も高い、自分ですることができる課題でも、登校後で友達の動きに気を取られていたり、体調が悪かったりした時には、ほとんど見ずにしようしたり、取り組めなかったりした。

前のめりが多くみられた4月から校外を歩行する時間を多く作り練習した結果、良い姿勢で歩け、階段も手すりや補助は必要ですが、昇降できるようになりました。慣れた教室や好きな遊具のある部屋へは、手が離れていても小走りに向って行けるようになりました。また、音楽を聴きながらいろんな動作やランニングをするリズム運動では仲間達の輪の流れにのることも多くなりました。

ボールを使ったおもちゃで、遊んだり、細かなスイッチ操作のあるおもちゃ等で遊ぶことなどを通して、目的を持った手の使い方よりたくみな使い方の練習をしています。細かな部品は口に入れるので注意しています。必ず教師が付くようにしています。身体の移動能力は質問7、基本的な日常生活動作は質問1)教科領域学習、2)日常生活学習に書かせてもらいました。

- 着替え、テーブル拭き等での動作がスムーズにできるようにする。
- ・腕の可動域を広げる。
- 体育で様々な準備体操をすることができる。
- ・立位のまま床に手をつけたり、膝をまげる運動ができる。
- ペグさし、ビー玉入れ等の作業がスムーズにできる。親指と人差し指を使って上手に掴むことができる。

靴の着脱(座位で)、着→爪先を靴の中に少し入れらると自分で奥まで足を入れる。脱→足を内側に曲げ、反対側の手で靴のかかとを引っかけて脱ぐ。時々反対側も言われなくてもできる。  
上衣の着脱(座位で)、着→上衣で顔を隠されると、自分で顔と腕を通す。脱→同様に顔を隠すように脱がされると、そこから頭と腕を出して脱ぎ切る。  
下衣の着脱(立位で)、着→つかまり立ちの姿勢で、後ろから足をトントンされると、片足ずつ上げて、ズボンに入れる。脱→片足を促して脱がせるともう片足は自分で上げて脱ぐ。  
座る・・・車椅子に近寄り、手すりに掴まって体を反転させ腰を入れる。膝を上げてフットレストを両方共倒し、「奥まで座りや」と軽く片手を握られると腰を浮かせて深く座り直す。  
立つ・・・床に居る時は机などに掴まって立つ。椅子からは人に手を差し出して「立たせて」とアピールし立つ。  
他、ドアノブはバー状の物は掴んで回そうとする。歯ブラシが近づくと手で払いのける。



・朝の自立活動の時間10:15～10:40に下記のことをしています。  
アスレチック(月、火)・・・平均台、太棧橋、ミニハードル、はしごまたぎ、マットでの寝返り、四つばい etc  
ランニング(水、木)・・・体のばし、10分間の歩行訓練

- ・三輪車の練習をして乗れるようになった。
- ・自分の写真付き名前カードを所定の場所に貼る。→よく見えるように言葉かけしながら貼らせている。
- ・朝の会の始まりと終わりに椅子を準備したり片付けたりしている。→持たせる所までを支援して、後は一人でさせている。
- ・排泄時のズボン、パンツの上げ下ろし。→言葉かけて、ほぼできることが多い。

本児は体温調節がうまくいかないので、暑い時は熱が上がり、寒い時は低体温となる(夏場の平熱は36.5℃～37.0℃くらい、冬場は35.3℃～36.5℃くらいと大きな差がある)。夏場は水分補給を頻繁にしても活動範囲はぐっと狭いものとなる。それに反して冬場は比較的元気で、わずかながらの側弯が認められるも、よく歩き、時々走ることもあった。

前傾姿勢でひざを曲げ気味のまま歩行し、バランスが不安定。

遊びの中で取り組む

- ・大きなボールを手で挟んで持ち高い所にあげる。
- ・手で体を支え、移動する。～上半身(腹筋、腕の力)の教科
- ・バランスボールで遊ぶ

朝の運動で取り組む

- ・立つ、しゃがむ動作。
- ・高ばい

指導課題

- ・基本的な運動動作の獲得を図る

指導方法

- ・手の上げ下ろしや膝の屈伸などの簡単な動作を、後ろから補助しながら動かし方を意識させる。
- ・身体の動きが固い場合は棒などを持たせて自分の動きが意識しやすいように配慮して指導する。
- ・ハードルまたぎ(体育)
- ・雑巾がけ(日常生活指導)

朝の運動時のラジオ体操で腕を上げる動作は「バンザイ」と声をかけて毎日繰り返しました。障害のある子はなかなか腕を上げることがないのでよかったです。加えて走ることも毎日行いました。担任と一緒に声かけしながらはしることで5分以上走り続けられるようになりました。高3の運動会では50m走を走り、マラソン大会では3Kmの部で優勝しました。目と手の協応動作は本人が目しやすきように周りの刺激を減らしたり、声かけしたり顔を手先に向けたりしました。

片腕を支援した歩行、四つん這い、寝返り、横座り、あぐら座位をとることができる。座位や車椅子からの立ち上がりは支援が必要。右側わんがある。小さいものを指先でつまむことができる。

①側わんの進行防止・・・車椅子の座位姿勢が崩れないように、腰を奥まで入れ、ベルトで固定した・背もたれを側わんに対応する形に調整した・横向きで寝た状態で側わんの狭くなっている部分を上げる

②補助歩行の安定・・・両足にしかあり体重をのせて立つ練習と歩行練習をした。歩き出すと前傾し、早歩きになりやすいのでゆっくり歩くようにした。

1)からだの学習を通して身体動作の向上をはかる。身体の各部位をゆるめたり、動かしたりし変形、拘縮を予防する。①腰、腹、背、肩、下肢を緩め、力の入れ方の学習をする。②からだの学習を通して、教員とゆったりとしたやりとりをする。(2)緊張をゆるめ、身体のイメージをより細かくしていく。①身体を緩める学習②踏みしめの練習・四つ這い姿勢や、膝立ち姿勢での重心移動の活動、つかまり立ちでの重心移動③立ち上がりの練習・椅子座位で前方からの誘導を受けながら、膝、足首を使っての立ち上がり。・椅子座位で後方から膝、足首にある程度の加重誘導を受けながらの立ち上がり。④歩行の練習……(実態:てつなぎ歩行が主であるが、一人で数歩歩ける。)・カバンを背負ったり、物を持ったりし、肩をあげないように歩く。・補助歩行の際は手を下げてつなぎ、誘導を受ける。・裸足で歩き、足裏の感覚を細かくする。ける感覚を育て使い方を学習する。・ウレタンマットの上での歩行練習(3)様々な活動を通して、身体動作の向上を図る。①吊り遊具遊び・膝や足裏、肘や手首など支える部位に応じた高さに吊り遊具のバーの高さを設定して、四つ這い位(バーに対して身体が平行な姿勢)や、両脇での抱え込み位(バーに対して身体が垂直な姿勢)で身体を預けながら、接地部位を支点としての揺れに対応したり、自分で揺れをつくり出してその動きを楽しむ。②坂すべり遊び・緩やかに設置された坂の上から、自分で身体の緊張を抜きながら滑り出しの動きをつくる。③跨り遊具での揺れ遊び……腰の動きと膝を曲げて両足での踏み返して揺れの動きを作って楽しむ

身体の動き・朝のラミックで、片足上げなど介助しながらさせている。・体育館遊びでは、安全に配慮しながらトランポリンの立ち乗1Jをさせたり、ジャンプをさせたり、鬼ごっこの真似で走らせたりしている。・朝の会で、カードを意図的に下の方に貼らせるようにして、中腰の姿勢を練習させている。・足のふらつき防止として、しっかりと足を覆う靴を買ってもらって履かせている。・上靴は自分で履けるよう、かかとの所に紐をつけている。・お手伝い活動(テーブル拭き、雑巾がけ、ゴミ捨て、おぼん配り、牛乳配りとカゴへ返すこと)などで、色々な動作を通して目と手の協応を図っている

【質問1】各学習における到達目標と指導方法、ならびに課題について  
2. 自立活動の学習

5)コミュニケーション

「自分の要求をジェスチャーや写真カードで伝えるようにする」本人の欲しがりそうなものの写真を準備し、写真を持ってきたら、要求をかなえるようにする。また、一緒に活動したい人の写真も選ばせ、差し出すことが出来たら一緒に行うようにした。くつをはいたり、服を着る時など、手伝って欲しい時には、ジェスチャーで御願いサインを出したら手伝うようにした。また、十分ではないが、写真カードは本人の要求をかなえる手段として使えそうである。

- ・人が好きで自分から関わろうとする面も多々見られるが人見知りもはんげしい
- ・トイレはサインで知らせる。
- ・手差し、指さして意志表示する。

日常の授業では「次、音楽だよ」とことばかけをすると必要ないすを持ち音楽室へ行くことが出来るようになった。指さし、身振り(いや)、簡単なサイン(おいしい、トイレ、かわいい、勉強、ちょうだい)で積極的にコミュニケーションをとろうとしているし、こちらもアイコンタクトなどで言いたいことが分かるようになってきた。「伝わる、伝えたい」という気持ちを大事にして、身振りサインなどでやりとりを増やしていくとともに、教師側も思いをくみ取れるようにじっくりと関わっていきたい。

1. 1)ことばのところに記述

- ・必ず声掛けをして話しかけてから行動。短い単語と行動を結びつける。

・人との愛着関係の育ち、自己表現意欲(意思伝達意欲)の育ち、意思表現方法の獲得(発声、言語、身振り、サイン、カードなど)、理解力の向上(アイコンタクト、スキンシップ等での前言語的理解、言語やサイン等での理解)など。人との愛着関係の育ち・・・先生や友達、家族が好きで、特定の人に特に愛着をもっている。C  
自己表現意欲の育ち・・・自分のやりたいこと(パソコンがしたい、ビデオが見たい)などを、教師に伝えようという意欲が育っている。

意志表現方法の獲得・・・「ば」(パソコン)、「まんま」(ご飯)、「おちゃ」(お茶)、「がっがっ」(学習室)などの語を発して意志を表現することができる。手のひらに人差し指をどんとんと当てて、パソコンがしたいというサインで意志を表現することができる。やりたくない事柄には、首を振って「いや」という身振りで意志を表現することができる。教室の物品を写真にとってカードにして綴ったものをめくって、パソコンがしたいという意志を表現することができる。表現力の向上・・・一部の教師のアイコンタクトを理解し、指しゃぶりや声を出すなどの行動をがまんすることができる。簡単指示「〇〇持ってきて」「両手で持ってきて」「〇〇拾って」などを理解している。

- ・教員に自分の思いを伝えたくて、自分なりのサインや発声で伝えようとすることが多い。
- ・ほめてもらいたくて、がんばろうとする気持ちがある。

(目)サインとなる道具を決めて、それを触ったり、持ったりすることで行きたい場所ややりたい活動などの自分の要求を相手に伝える。

(方)サインとなる道具を決めて、自分から行きたい場所ややりたい遊びを選択し、相手に伝えていけるようにする。また、写真カードとのマッチングも重ねて行う。

(課)・教師が写真カードを見せてやりたい事を尋ねると、うなずきや顔を横にして返事し、意思表示している。5枚の写真カードから使いたいおもちゃの写真を手にとって、教師に手渡すことができるようになった。

・場所のカードについては、今後の課題である。

- ・手話やそうだ言語などを用いた意志伝達の幅を広げる。・・・中学生になる。教科担任制で多くの人と関わるようになり、伝えたいという気持ちが強く、表現方法が豊かになってきている。
- ・指さしなどで、つたえることができる。・・・目的を伝える方法が多様多様になってきている。

身振りサインで「お茶が欲しい」「トイレしたい」など表現豊かに表現する。

人とのかわりに積極的であり、顔見知りを見つけると、発声や指さし、拍手をすることが見られます。相手が反応すると、さらにそれに対して応えようと、再び何らかのアクションを示します。

母親に対しての愛着は特に大きく、母親を見つけると特に大きな発声や拍手など喜びを身体全体で表現しています。

基本的に意思表示は発声やジェスチャー(指さし、手を合わせて『御願います』、いやな時は首振り、良い時や分かった時にはうなずき)であり、相手を呼ぶ場合も発声(可能な時は、言語)、相手の肩に触れるなどを行っています。

「到達目標」

意思を身振りで伝える事が出来る

「指導方法」

本人が獲得している動作を意味づけて声かけをしつつ使っていくようにする。

「課題」

今まで、アイコンタクトが主であったため、身振りのレパートリーが狭い

- ・意思は指さし&かんたんな身振りサインで伝えようとする。
- ・楽しみや喜びを分かち合おうと教師をさそう。

- ・人に対する愛着行動が多く見られる。友達関係も特に好きな友達に対する愛着行動が見られる。
- ・好きな物、そうでないものがはっきりしていて、本人が選択する場面では、好きな物に手が伸びたり、注視するなどして自分の意思を示す。

- ・気持ちや要求を身振りや写真等で表現する。  
→コミュニケーションカードの使用  
→使用の拡大と身振りの獲得

・他人と関わる際、あいさつの時など、手を挙げたり軽くタッチしたり、手を握ったりする。→それを本人なりの「あいさつ」「関わり方」と認めるようにし、周囲にもそれを伝えるようにしている(本人が手を出した時、教師が「おはよう!」「会いたかった!」などと気持ちを代弁するようになり、「○○君にとってあいさつなんだよ」と伝えるようにしている。)  
時々、同級生はそれを理解できずにトラブルになる事もあるが、上記の積み重ねにより周りも有る程度、それを認め、理解しており(本人)手を上げる→(友達)「おはよう!」→(本人)笑顔→(友達)笑顔というそれなりに円滑な流れになっているように思われる。

本人からの要求動作が増えるように、いろいろな活動に置いて選択するような場面を設定して、本人の目線、手や身体の動きから要求を読み取り、それに応えるようにしていく。

- ・まわりから愛され、育てられていると思われ、基本的に人に対しては愛着を持って接している。
- ・言葉による指示は、かなりのことが理解でき、行動に移す事ができる。
- ◎意志、表現方法の獲得については、生きる力の学習として、日常的に取り組んでいる。何か行動に向かう時におきまりの歌をうたうなどしながら、コミュニケーションをとったりしている。

「到達目標」

・指さしや発声で自分の意志を伝えられるようになる。

「指導方法」

- ・具体物を提示し、選択できる機会を多く持つ。
- ・自分の要求が通じたことを喜びとして実感できるように、本人にわかりやすく反応するよう心がける。

「課題」

・発声の種類(ママ、ウー、パ/パ/パーなど)や声の高低、速さなどで意思表示をしてくれている。が、せっかく自己表現してくれていてもきづかなかったり、要求に応えられなかつたりする事も多い。受け手の感性を磨く。

・人との愛着関係の育ち、自己表現意欲(意志伝達意欲)の育ち、意志表現方法の獲得(発声、言語、身振り、サイン、カードなど)、理解力の向上(アイコンタクト、スキンシップ等での前言語的理解、言語やサイン等での理解)など  
 ・他人との関係を持つと積極的にアプローチする。コミュニケーションをとって反応してくれる人、かまってくれる人等に関しては積極的にコミュニケーションをとることが多い。反応がなかったり、かまわなかったりすると人見知りをする。関係を持つとしない。名前を呼ばれても返事をしない等無視する事もある。意志伝達に関しては指で示しながら、自分の意志を伝える事が出来る。活動を拒否する場合は頑なに力を入れて拒み、最終的にはトイレサインを出してやりたくない活動から逃げようとする。できないものは「できない、やってください」と訴える事が出来る。

発声、指さし、動作や表情などで自分の要求を周囲に伝える事ができた。指導者側が適確に発信を受け取る事で、表現意欲は高まってきた感がある。

排泄、排便に関しては自ら意思表示する。遊ぶためにふくる、雑誌を欲する。自ら賢明にさがすことはあるが、職員に要求することはない。  
 コミュニケーション:本児から何かとアプローチしてくるので、それに共感的に応じる。特に最近、喃語で話しかけて来る事が多いので、同じ喃語でやりとりを楽しんでいる。

自分で関わっている相手を見つめる事は少ないが、1対1の関係の中で、自分が関わっている相手を意識する様子がうかがえる。また、自分の快・不快の感情を声や身振り、表情などで伝える事が出来る。また、教員からの声掛けをきっかけにして、行動を切り替えられる事もある。自分から教員に抱き付いて関わりを楽しんだり、友達に触れて関わったりするようになった。周りをよく見て、すぐに気づき、活動の流れがわかってくると前に出てきてやりたい気持ちを伝える事ができた。ほめられると、うれしそうなる表情をする。期待してくると目を輝かせ声を出し、両手を振って身を乗り出して注目している。

・友達への関わり方として、「肩をトントン」の言葉を理解し行動に移す。  
 ・発声・身振りサイン・写真カードで要求を伝える。

(記録)・本児からのサインは、主に両手をパンと叩く(やって)の意味や股間を叩く(トイレ)のサイン\*トイレ以外の時もあるが・・・空いた食器を持ち上げる(おかわり)のサインなどが挙げられる。  
 ・教師との関わりを持ちたい時には、自分の頭やお尻を軽く叩く事があり、教師がまねして叩くと面白がる様子が見られる。  
 ・朝の会での呼名や授業始まる前の出席調べで、名前を呼ばれると両手で「パン」と叩いて返事をする場合もある。  
 ・思い通りにならないと、泣いているような大きな声を出したり、手で物をはたく動作を繰り返す事がある。

視覚優位・・・写真や絵カード等よく見て理解している。声掛けだけでもかなりの状況判断出来ている。せつぱつまると、自分でも写真や絵カード等を持ってきて空いて(特に大人)に伝えようとする。(トイレ等)  
 コミュニケーション・・・比較的とりやすい。反応がはっきりしていてわかりやすい。身振りも含め、目を見てわかりやすく表情豊かに話す。

(小3ぐらいまでの)  
 目標①日常生活場面での指示が理解できる。  
 ②Yes-Noを身振りや発声などで意志表示出来る。  
 ③自分の要求を身振り、具体物の提示、写真カードなどで伝えられる。  
 ④場面に即したあいさつから発声を伴う身振りができる(こんにちは、さようなら、いただきます、ありがとう、拍手等)  
 ⑤甘えたい時、支えや介助が欲しい時態度や仕草で訴える事が出来る。  
 方法・指示は場面に即して本児の注意を喚起してから、具体的、簡潔に伝える。  
 ・あそびの場面など、本児が選択でき決定できるようにし、Yes-Noを聞き出す。  
 ・場面に即して、本児が活用できそうな、意志伝達手段を見本で示していく。  
 ・視線、仕草、態度、発声、喃語で大人と十分やりとりを楽しむ。  
 ・本児なりの表現で大人に何かを伝えようとしてきたら快く受け止め「～なのかな?」と言葉で確かめ応じるようにする。